（参考資料２）水稲害虫の発生とＩＰＭ技術（広島県中部）

**中干し**

田植期

分げつ期

幼穂形成期

最高分げつ期

成熟期

育苗期

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月 | ５月 | ６月 | ７月  出穂期 | ８月 | ９月 |
| 水稲の生育 | 標高：３００ｍ  品種：コシヒカリ |  |  |  |  |  |
| 管理内容 | 塩水選  種子消毒  立枯病防除  育苗箱施薬  穂ばらみ期防除  傾穂期防除  カメムシ多発生または  常発地の場合  出穂期防除 | 判断 |  |  | 判断 | 収穫 |
| 病害虫の発生・ＩＰＭ技術 | イネシンガレセンチュウ | イネミズゾウムシ  イネミズゾウムシ | フタオビコヤガ |  | 斑点米カメムシ |  |
| 【管理上の注意点】  種子更新  種子消毒を行う（温湯or薬剤）  《ウンカ類の見分け方》  ＊調べる株元付近を数回たたき，水面や板に  落ちた虫を見分けて数える。  真横  セジロウンカ  トビイロウンカ  斜め後ろ  ヒメトビウンカ  水面での後脚の出し方 | 【要防除水準】  越冬後成虫飛び込み盛期  （育苗箱施用田）  成虫1頭/株以上  【管理上の注意点】  深水，掛け流しを避ける。  ⇒浅水，間断かんがいにする。 | 【管理上の注意点】  育苗箱施薬を実施（薬剤選定）。  日陰地や，大豆作付跡等葉色の  濃い生育のほ場で発生に注意 | 判断 | 【管理上の注意点】  水稲出穂２～３週間前に草刈を行う  【要防除水準】  カスミカメムシ類主体の地域 その他加害種が主体の地域  乳熟期4頭以上 　　　乳熟期2頭以上  ＊捕虫網による乳熟期の20回振りすくい取りの1ヵ所平均虫数 |  |
|  |  | 飛来  セジロウンカ |  |  |  |
|  |  | セジロウンカ |  |  |  |
|  |  | 【要防除水準】  幼穂形成期～穂ばらみ期  １０～２０頭/株以上  【管理上の注意点】  発生予察情報に注意し，適期に防除する。  判断 | 飛来 | 判断 |
|  |  | イネドロオイムシ | トビイロウンカ |  |  |
| |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 凡例 | |  |  | |  | 年により発生が変動し，被害が大きい | | 飛来状況により発生が変動し，被害が大きい | | |  | 毎年発生がある | | - | | |  | 年により  発生が変動する | | 飛来状況により  発生が変動する | | |  | 常発地で発生 | | - | | |  | 発生状況に注意 | | 発生状況に注意 | | |  |  | | | | | |  |  | |  | | |   ○○  ○○  ○○  ○○  ○○  ＊図の長さや位置は主要病害虫の発生時期を示している。 | 【要防除水準】  ６月中下旬ごろ  （幼虫ふ化最盛期）  発生幼虫数12頭/株以上  【管理上の注意点】  育苗箱施薬を実施。  多発地域ではクロラントラニ  リプロール剤を使用する  飛来害虫 |  | 飛来 | 【管理上の注意点】  発生予察情報に注意し，適期に防除する。  【要防除水準】  飛来後第二世代幼虫期  ５頭/株以上 |  |
|  |  |  | コブノメイガ |  |  |
|  |  | イネ科雑草を除草する。　　　　　　　出穂期防除をする。  ほ場を早めに耕起する。　　　　　　　育苗場所周辺を除草する。  　□イネ刈後に耕起する。  一部飛来  ヒメトビウンカ | 【要防除水準】  発蛾最盛期の５～７日後  被害株率２０％以上  ＊上～中位の被害葉を数える。  【管理上の注意点】  育苗箱施薬を実施（薬剤選定）。  葉色が濃くならないように肥培管理を適切におこなう。 | 注．農薬登録は令和２年１月10日現在 |  |